

はじめに

2019年度の後半から2020年度は、世界的に「見えない敵、新型コロナウイルスの感染症拡大」により、経済・文化・教育・スポーツ界等々に大きな影響を及ぼすとともに、終息が見通せない中で重苦しい空気が今なお停滞しています。

あわせて、今年度も各地で自然災害が発生し甚大な災害が起きました。特に近年、台風やゲリラ豪雨など、想定を越える災害が多発しています。大人も子どもも身を守ることを今一度真剣に考えるとともに、「命を守り、安心・安全な生活を送る」ため、冷静かつ迅速に判断し行動できる力を常日頃から意識し、実践できるようにしたいものだとあらためて実感しているところです。

さて、上記のような状況の中で、四万十市内の小中学校は、新年度早々から臨時休校となり再開は5月11日でした。ただ、そんな中であっても、各学校は子ども達の学びを補償すべく、創意工夫を凝らした「家庭学習」を提示し、再開後のスムーズな教育活動の展開を想定して、学校としての歩みを止めることはありませんでした。

その結果、再開後間もない中で実施された「標準学力調査」、その後の「県版学力調査」においては、小中学校ともに危機意識の共有が図られ、不断の取り組みの成果が見られました。ただ、学年によっては、学力の定着向上に課題も浮かび上がってきました。今後、四万十市の子ども達が生き生きと活動し、無限の伸びしろのある子ども達を輝かせる為にも更に創意工夫し意欲的な取組が推進されることを願います。

四万十市の教育課題に不登校の解消があります。さらに、近年人一倍配慮の必要な子どもが増え、発達障害の子どもへの支援をどのように具体的実践に繋げれば効果があるか等、一人ひとりの特性を十分に把握し個々の成長に結びつけるようご苦勞をされている事と思います。普段からの関係づくりを大切にし、お互いの思いを理解し合い、認識を共有してともに歩いていくことで、未然防止に向けた取り組みを充実させていきましょう。

本年度も市内小・中学校の校内研修、サークル・各種部会から活動の集約を「教育しまんと」にまとめました。ただ、ここにも新型コロナウイルスの影響が大きく、特に「サークルI」に代わる「授業づくり講座」の取り組みは、再考を余儀なくされ、当初の計画からは大きく異なりました。各学校には、自校の教育活動を展開していく中で、可能な限りの積極的参加をいただきました。ご協力に感謝申し上げます。

本年度は、あくまでも試行的な取り組みではありましたが、消化不良の面もあり、特に技能教科の授業研修の場が限られる等の課題も見えてきています。本年度の集約を踏まえて、次年度への取り組みに反映していきたいと考えております。どうか、手に取って頂きこれからの実践の参考にして頂けたら事務局としても有難く嬉しく思います。なお、この集約は四万十市教育研究所のホームページにも掲載しますのでご覧ください。

本年度も教育研究所並びに教育研究会の諸事業にご理解、ご協力頂きましたことを心より感謝しお礼申し上げます。今後益々、四万十市の教職員の研修が充実・発展出来ますようご期待申し上げます。

令和3年3月吉日

四万十市教育研究所
所 長 藤原 昭彦